

島根

松江支局 ☎0852(2)3322 FAX(2)33224
邑智支局 ☎0852(3)0270 FAX(3)0271
浜田支局 ☎0852(2)1845 FAX(2)00661
益田支局 ☎0852(2)1636 FAX(3)0040

アユ産卵新手法で把握

高津川水系で環境DNA分析



資源保護へ活用期待

益田市と津和野、吉賀両町を流れる高津川水系特産のアユについて、水の「環境DNA分析」という新たな研究手法により、産卵状況の把握が進んでいる。これまで知られていなかった産卵場の候補地が見つかると、減少が続くアユの資源保護への活用が期待される。

(松島岳人)



この研究は、福岡工業大社会環境学科の乾隆帝准教授と山口大大学院創成科学研究科の赤松長久教授たちのチームが2018、19年、産卵時期の9～12月に実施した。

「環境DNA分析」は、川など水の中に含まれるふんや皮膚、分泌物のDNAの量を調べ、どれくらいの密度で生物がいるのかなどを知ることができる手法。アユが産卵をする日没後と日没前のDNA量を比較することで、産卵行動があったかどうかを調べた。

その結果、これまで重要な産卵場として知られていた益田市内の三つの浅瀬で、日没後にDNA量が上昇していたことが確認できた。さらに、少し下流の白上川の合流地点の水深のある場所でも同様の変化が見られ、新たな産卵場の候補地とされた。年によって産卵の最盛期が違ふことなども分かった。

高津川漁協の推計では、同水系でのアユの総漁獲量は、02年ごろまでは年100～120トほどだったが現在は約30トに減少。産卵の調査は資源保護のための課題だったが、潜水や捕獲による調査はアユへの影響が大きく、難しかった。

乾准教授は「非破壊的に資源量を知ることができ、意義が大きい。このデータを、今後の流域での資源保護の議論に役立ててもらいたい」と期待。同漁協は、「親魚放流の場所やタイミング、産卵場の環境整備などに生かしていけたら」としている。